

中濃農林事務所の普及活動状況 令和4年5月25日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■小学生米作り体験学習 講師

5月18日、美濃市立大矢田小学校5年生を対象とした米作りの体験学習が開催され、米の作り方や地域稲作の特徴、米と取り巻く状況などについて農業普及課職員が講義を行った。

同小学校では、毎年「総合的な学習の時間」の取り組みとして、地域の農家等の協力のもと、5年生が田植えや稲刈り体験を行っている。

農業普及課では、未来ある児童に農業を身近に感じてもらい、理解を深めてもらえるよう、関係機関と連携して活動を支援していく。
(地域支援係)

■JAめぐみの就農塾 第1回夏秋なすコース

5月6日、JAめぐみ実証ほ場において、就農塾（夏秋なすコース）が開催された。就農塾は栽培技術と農業経営の基礎知識を身につけ、夏秋なす生産に取り組む新規就農者の育成を目指している。

今回は11名の塾生とJA、可茂・中濃農林事務所が参加し、ほ場準備、定植作業について研修を行った。塾生は講師の説明や作業に熱心に耳を傾けていた。また、実際に定植、仮支柱への固定作業を繰り返し行い、作業のコツ等をつかんでいた。

就農塾は3月まで11回の開催が計画されており、農業普及課では、今後も就農塾支援を継続して、受講生のスムーズな新規就農を支援していく。

(地域支援係)



【学習の様子】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■水稲（採種） 苗審査

5月6日、12日、18日、25日に、(農)美濃種子の苗審査をJA担当者と連携して実施した。

苗生産者は温度・水管理に気を配って、概ね良好な苗生産ができている様子であった。

農業普及課では、引き続き種子生産を支援し、優良種苗を安定確保していく。
(地域支援係)



【水稲苗】

■小麦 赤かび病調査

中濃地域では、営農組織や個人農家等が小麦「さとのそら」を約220ha栽培している。

小麦の重要病害である赤かび病は、開花期の天候不順により発生が増加するが、今年は4月下旬に発生的好適条件が続き、4月28日に病害虫発生予察注意報が発令され、被害の発生および拡大が懸念される。

農業普及課では、5月10日にJAめぐみの担当者と赤かび病発生状況を調査し、管内で発生が始まっていることを確認し、生産者へ注意を呼びかけた。管内では2回の適期防除がほぼ実施できたが、5月中旬以降も好適条件となる予報となったことから、JAめぐみとともに3回目の追加防除を生産者に呼びかけた。

今後は、赤かび病の発生状況を注視するとともに、出穂期と積算温度から収穫適期日を算出して生産者に情報提供を行い、良質な小麦生産を支援していく。
(地域支援係)



【調査の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲 米粉用水稲品種「こなゆきひめ」現地実証

県農業技術センターが開発した県内初の米粉専用品種「こなゆきひめ」は、パンや菓子などの加工時のふくらみが良く、米粉臭が少ないため、加工に利用する素材本来の風味を活かせると評価されている。

関市の6次産業化に取り組む経営体が、昨年度に引き続き県農業技術センターの安定生産技術を導入した現地実証ほを設置した。

農業普及課では、関係機関と連携し、安定的な収量が確保できるよう現地実証ほの調査を行い、栽培を支援していく。（地域支援係）



【実証ほの様子】

■ゆず 上之保ゆず研究会（栽培研修会）

上之保ゆず研究会は、ゆずの栽培技術の研鑽や所得の向上を目指して令和2年度に設立され、栽培技術の優れた農家や出荷量が多い農家を中心に13名の会員が所属している。剪定研修会を始め、様々なゆずの品質向上に係る取り組みを行っている。

5月18日に開催された研修会では、基本に立ち返る意味も含めて、「農薬を使用しない栽培を進めるなかで、どのようにゆずの品質を上げるか。」をテーマとして、農業普及課より耕種的防除の重要性を説明した。

病害葉や枯れ枝の除去、除草作業等様々な耕種的防除を、どの程度取り組めばゆずの品質が向上できるかを会員個々で試してもらおうこととし、秋の収穫期にはそれぞれの取り組みを踏まえて検討会の開催を予定している。（地域支援係）



【研究会の様子】